

## 4-15 伊豆半島におけるラドン観測(IX)

### Radon Observations in the Izu Peninsula (IX)

東京大学 理学部

Faculty of Science, The University of Tokyo

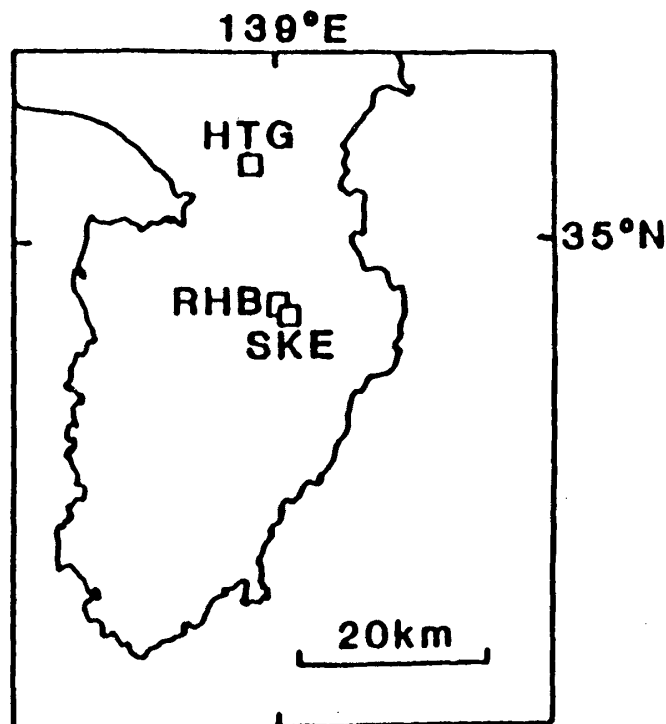
前報<sup>1)</sup>にひきつづき、伊豆半島における地下水中のラドン濃度の連続観測結果(1989年11月~1990年11月)を報告する。

観測点は、第1図に示す中伊豆第1(SKE)、中伊豆第2(RHB)の2地点である。第2図は各観測点における連続観測の記録で、1時間毎のラドン濃度(積算値)の24点移動平均値を、この期間の平均値に対する相対値で示したものである。

SKEでは2月20日の伊豆大島近海地震(M6.5)に対するコサイスミックなラドン濃度上昇がみられた。この地震に対しては東海地方の観測点(OMZ)でも似たようなラドン濃度変化が観測されている。RHBでは冬期のバックグラウンド変動が比較的大きいため、この地震に関連した変化は明瞭ではない。

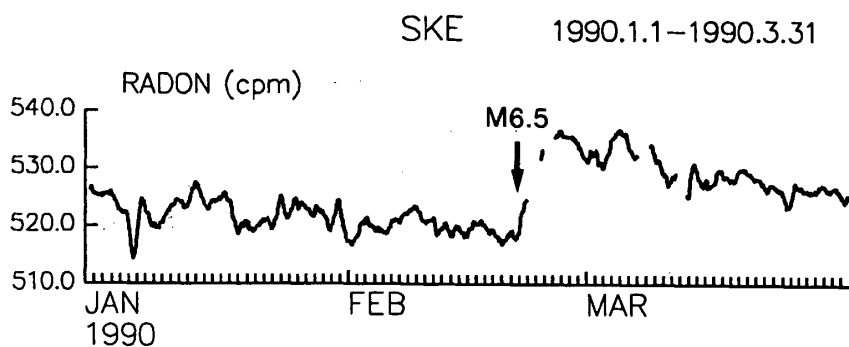
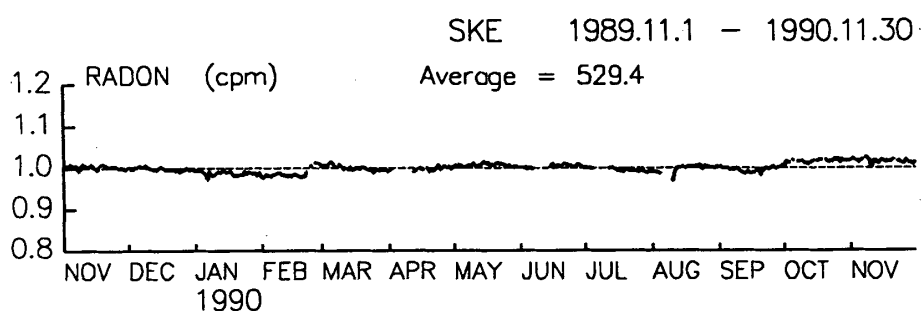
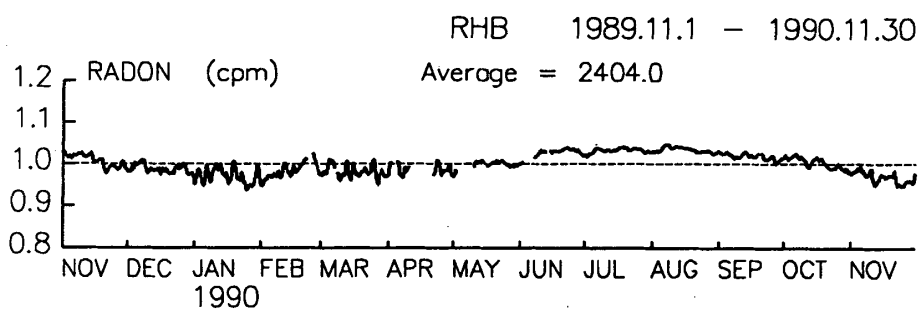
#### 参 考 文 献

- 1) 東京大学理学部：伊豆半島におけるラドン観測(VIII)，連絡会報，43(1990)，306-307.



第1図 伊豆半島の地球化学観測点の位置

Fig. 1 Locations of geochemical observation sites in the Izu Peninsula (SKE: Nakaizu-1, RHB: Nakaizu-2).



第2図 SKE (中伊豆第1), RHB (中伊豆第2) における地下水中のラドン濃度の変化 (1989年11月~1990年11月), および SKE でみられた伊豆大島近海地震 (2月20日) に対するコサイスミック変化

Fig. 2 Temporal variations in the radon concentration in groundwater at SKE (Nakaizu-1) and RHB (Nakaizu-2) (November 1989 - November 1990), and a coseismic changes for the Izu Oshima Kinkai Earthquake (February 20) observed at the SKE site.